



～キリスト教精神にもとづき、子どもたちの未来と地域福祉の向上に努めています～

二葉の今、そしてコロナ問題がもたらす影響

二葉は今年1月10日で創立120周年を迎えました。明治より今日まで幾多の困難を乗り越え保育・児童福祉に邁進して参りましたが、これまでの歩みを振り返り、また新たな時代に必要な事業を志すため120周年事業を企画し、2月1日には来賓の方々を迎えた記念式典を執り行うことができました。

記念式典を終えほっとしたのもつかの間、2月中旬から新型コロナウイルスの感染が世界的にも拡大し、法人内の施設においても感染症対策に追われながら緊張した毎日を過ごすこととなりました。

0歳から2歳までの乳幼児が在院する乳児院には病虚弱な子もおり、職員がコロナウイルスを持ち込まないか不安の日々でした。児童養護施設においては、幼稚園や学校が長期休校に入り外出も出来ず一日中児童が在園となりました。平常時でも不安定な児童が多い中、児童間のトラブル等もあり職員も疲弊状況になりました。自立援助ホームは15歳から19歳くらいの社会的自立が困難な児童の支援をしている施設ですが就職先のシフトが減り、入居費(月額3万円程度)が払えない利用者も出てきました。

4月初旬、都内の全児童養護施設・自立援助ホームの実態調査を実施し緊急要望書を東京都知事あてに提出しましたが、マスクや除菌剤等の不足に困っていた施設も多くありました。二葉においては支援者の方々からマスクや除菌剤等のご寄付をいただき、皆様のご支援があって二葉が成り立っていることをあらためて実感致しました。

職員たちの努力、そして皆様のご支援のお陰で在園する子ども達に大きな支障をきたすこと無く過ごすことが出来ましたが、最も厳しい状況に置かれたのは児童養護施設等から卒園した若者です。5月上旬に児童養護施設と自立援助ホームアフターケア等担当者に緊急にアンケート調査を実施しました。この5年間の3施設卒園・退所者が丁度100名いる中、失職者6名、

生活費不足から家賃も払えない者が9名、マスクや消毒用品不足で困っている者が6名、その他では健康不安が募る、借金が増えた等の実態が明らかになりました。一方で卒園・退所後も二葉が「就労・生活状況の把握が出来きる人」が88人におり、その中で「困った時に相談できる人や場所がある」人は83人いることが分かりました。以前と比べると巣立った子ども達の多くが今も二葉と繋がっていることが分かり、意義深い調査となりました。

ここところまたコロナ感染が拡大し続けていますが、子ども達の未来の創造のためにどんな逆境をも跳ね返しこれからも努力していく所存です。

特に失業等の経済的影響はじわじわと拡大しており、自立支援アフターケア基金はじめ、今後とも変わらぬご支援を心よりお願い申し上げます。

社会福祉法人二葉保育園 常務理事 武藤 素明



120周年を記念して製作した記念品の表紙イラスト
(1月10日は記録上、野口幽香たちが二葉幼稚園を始めた日)

二葉乳児院では昔から職員も裸になり子ども達と一緒に入浴します。保育士として入職した二十数年前それが「当たり前」だと、全く疑うことなく躊躇も戸惑いもなく一緒にお風呂を楽しんでいました。

何故なら乳児院は「生活の場」だからです。朝起きたら「おはよう」と言い、一緒に食事をし、散歩に行き、誕生日を祝い、季節の行事も一緒に行います。「風呂の水は血よりも濃い」とはある映画監督の言葉ですが、本当にその通りだと実感できます。

しかし、この度の新型コロナウイルスの発生はこの「当たり前」という価値観に一石を投げ一気に不安という波紋を広げました。

乳児院はまさに三密の場所であり、飲食時も入浴時ももちろんマスクは外します。職員の大半は電車通勤です。ウイルスがひとたび院内に入ればほとんどの人が濃厚接触者になります。「万が一自分が感染したら」と全員が考えたと思います。しかし、子ども達の心の成長・発達を考えると、「当たり前」を全て止めることはできません。

ただありがたいことに多くの方から消毒液やマスク等、不足している物品の寄付を頂けたことは職員の安

心感に繋がり、対策対応を考える中でできる限り「当たり前」を崩さずに生活できていることには感謝するばかりです。

今後は台風などの災害対策も考え、目の前の生命を守れないということが絶対にないよう万全の準備をしていきたいと思います。

二葉乳児院 主任 布宮 広子



1月末頃から新型コロナウイルス感染症について報道され始めた当初はまだ危機感を持っていなかったのですが、その後に緊急事態宣言が発令され、休園になった区もある中、新宿区は登園自粛の対応になりこれまで経験したことがない事態となりました。

保護者には、区からの情報や保育園としての見解など一斉メールを使い家庭保育の協力依頼をし、4月の登園が70%から5月は30%になりました。

6月からは90%以上の登園に戻っていますが、送迎時の入室経路を変更し、入室前の検温や保護者同士の接触を減らす等、対策を続けています。

保育中は食事時に密にならないよう1テーブルを6人で座っていたところを3人ずつ座るよう変更し、昼寝時の布団は間隔を空け、これまで使っていなかった3階ホールで昼寝をするなど工夫して保育にあたっています。

2、3月の行事は見直しや中止にし、散歩も見合わせになりましたが、園内を十分に活用し運動遊びもたくさん組み入れるよう努力していると

ころです。今後の行事も保護者参加の行事は中止や、別の形で取り組みたいと考えています。

職員体制においては登園人数に応じて2～3グループに分け、感染予防に努め、休みの職員は、在宅研修・在宅ワークを行い、職員のスキルアップに繋がる取り組みをしました。

これからも日々緊張をもって保育していくこととなりますが、園全体で衛生管理・健康管理に努め保育園関係者から感染者が出ないことを目指し、今の状況でも子どもたちの笑顔が見られる保育をしていきたいと思っています。

二葉南元保育園 園長 町田 とし江



令和2年2月末、国内でも経路不明の感染者が連日発生し報道が過熱していた頃、二葉学園でもウイルス感染を極力避けるよう対応を本格化させていました。子ども・職員ともに不要不急の外出を避け、家族交流も含め外部との接触を減らし、会議の中止や職員の行き来も減らすなど、生活環境はガラリと変わっていききました。

生活施設である児童養護施設は、一旦ウイルスが持ち込まれると気づいた時には蔓延している可能性が高く、閉鎖することもできないため、その後の隔離・安全確保や職員体制など課題が山積みでした。さらに基礎疾患を持った子どももいる中では、何より水際で食い止める必要があり、非常に緊張感の高い中で対応になりました。

外出自粛中、育ち盛りの子ども達のストレスは溜まる一方で、それに起因するトラブルも起きていました。普段はそんなことを言わない子どもが、学校の再開を楽しみにしてい

る様子もありました。短時間の外出については、職員付き添いのもと近所の公園等に行くことを認めており、僅かな時間の中、サッカー等で元気に走り回る子ども達の姿がありました。DVDを借りたり、食事に力を入れたり、職員達もあの手この手でこの自粛期間を乗り越える工夫をしてきました。

少しずつ状況に変化が現れ、学校も再開し始めました。生活は元通りにはなりませんが、「新たな生活様式」の中で楽しく過ごす方法を子ども達と見出し、また活力ある学園生活が送れるよう取り組んでいきたいと思っています。

二葉学園 主任 赤瀬 正樹



現在入居中20歳の利用者。彼は高校卒業後専門学校へ進学。トリノスへ入居し今年度末には新卒での就労自立の予定でした。年明けから、就職活動で企業説明会への参加やエントリーシートの作成をしていました。



しかし、新型コロナウイルスの影響で状況が一変し、20歳の利用者が受けた影響はあまりに大きなものでした。

企業説明会も新卒採用枠も全てなくなり、学校も年度末から新年度まで3か月半の休校。学費の返還対応もありませんでした。心中を察するに、自分の将来の進路

への焦りや通学も出来ずに先の状況を見通すことが出来ない不安が大きかったことでしょう。ホームの退居時期は徐々に迫り、入居時に想定していた状況とはかけ離れたものとなってしまいました。ホームからは各種団体等が行っている緊急助成制度の情報を集め可能な限りの申請を行い、一定期間の利用料免除の支援等も行いました。

そんな混乱の中、彼は新たな進路の選択肢を見つけました。

専門学校から大学編入という選択肢です。ただし編入試験や追加で2年間の学費がかかるので、編入制度を設けている大学の情報収集等まだまだ選択肢の一つに過ぎません。

しかし、新たな発想を持って自分の進路を切り開くための思考・決断が出来ることこそ、自立には必要不可欠な要素であると私は考えます。どうかこの選択肢を自らの力で選び、そしてその努力が結実することを願っています。

トリノス ジョブトレーナー 金崎 慎太郎

創立120周年記念会の報告

—すべての子どもが愛され、健康に育つことを願って歩み続けていくために—

2020年2月1日(土)、二葉の創立120周年をお祝いする記念会を行いました。第1部の記念式会場は、創設者の野口幽香先生が二葉幼稚園を開設されるためにご支援を頂いた日本基督教団番町教会の礼拝堂をお借りすることができ、素晴らしい空間の中で、150名余の皆様をお迎えして盛会に行うことができました。第2部及び第3部は番町教会から最寄り、JR四ツ谷駅前のエプラザで行いました。

本会の準備のために、2018年11月から1年以上をかけて実行委員会を法人全体で組織し、一部外部委員にも参加頂きながら取り組んできました。何よりも新型コロナウイルス感染拡大のごくわずか前に、創立120周年記念行事の中心的イベントを終えられたことは、神様の導きとともに皆様のお祈りによるものと、本当に感謝あるばかりです。本誌では紙面の都合上、写真を中心として当日の様子を簡単にご報告いたします。



記念礼拝のために使わせていただいた番町教会の素敵な礼拝堂



礼拝堂に集う参加者



司式をお務めくださった
浦上充牧師
(東中野教会)



主催者挨拶を行う
井上従子理事長



ご祝辞を頂いた谷田治
東京都福祉保健局少子
社会対策部長



ご祝辞を頂いた
吉住健一 新宿区長



役員全員による120周年の祈り



野口幽香賞選考委員長
(遠藤久江前理事長)の
講評



野口幽香賞受賞者とな
った片野清美さんのお
挨拶



片野清美さんと野口幽
香先生と森島峰先生の
お写真



「神の愛とこども」と
題した記念講演をして
くださった作家・元外
務省主任分析官 佐藤優
(まさる)さん



閉会后、野口幽香賞受
賞者・片野清美さんと
役員・施設長での記念
写真



二葉の全施設の実践を
各施設10分ずつ発表し
ました



「この地に根付いた保育
実践—古き二葉を訪ね、
未来を描く」と題した
二葉南元保育園の報告



「二葉旭町保育園から二
葉くすのき保育園へ」
と題した二葉くすのき
保育園の報告



「二葉乳児院における里
親家庭支援とこれから
の『乳児院機能』の展望」
と題した二葉乳児院の
報告



「小規模化・地域分散化
児童養護施設の実践そ
してこれからの二葉学
園」と題した二葉学園
の報告



「10年のあゆみ～子ど
もとともに、地域とと
もに～礎づくりの10年
とこれからの挑戦」と
題した二葉むさしが丘
学園の報告



「自立援助ホームトリ
ノスでの4年間の実践
を通しての考察」と題
したトリノスの報告



各施設の発表の後、各
施設の報告に専門的助
言をくださったアドバイ
ザーから一言ずつ頂
きました



興味を持って
報告に聞き入る参加者



和やかな雰囲気の中、
2日を通して過ごした
皆様で、交流会を行い
ました



地域の支援者等も集つ
てくれました



当日、司会・進行・各
部責任者となった施設
長たち
終わって安堵の表情

社会福祉法人二葉保育園 120周年記念会 2020年2月1日(土) 会場：第1部：番町教会、第2部・第3部：エフプラザ
第1部 記念式(10時30分～12時00分)
①記念礼拝・主催者挨拶・来賓祝辞
②第1回野口幽香賞贈呈式(片野清美様)
③記念講演 佐藤優氏「神の愛と子ども」

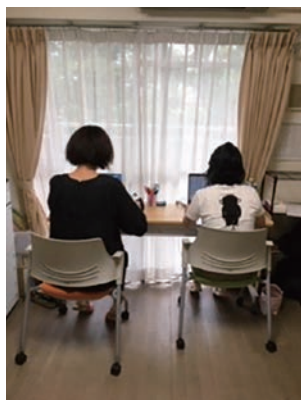
第2部 実践報告会(13時30分～15時15分)
※各施設の歴史及び実践とその特色、これからに向けた抱負及び課題を発表しました

第3部 懇親会(15時30分～17時00分)
※冒頭に、120周年を記念して製作した映像を上映いたしました

フォスタリング機関事業へのチャレンジ



令和2年度、二葉乳児院では平成20年度から開始している東京都里親支援機関事業に加えて、4月1日より江戸川区児童相談所フォスタリング機関事業、荒川区児童相談所(7月1日開所)里親支援事業を受託し業務をスタートさせました。また、東京都里親支援事業に2名の自立支援相談員が配置され、計10名の新規採用を行い、里親支援チームが22名となりました。



新規事業と新メンバーでの年度スタートでしたが、開始1週間で殆どの職員が在宅勤務となりました。新メンバーにとっては不安な状態であったと思いますが、オンラインミーティングなど、職員間の連絡連携を欠かさない様に配慮しあい2か月を乗り切ることができました。マニュアル等の再読、各担当地域と各業務内容の

書式整理等、それぞれが担当業務を深められるように現状の課題整理に取り組むことができました。

6月からは通常業務に戻り、里親家庭と子ども達に会いにいく日々が戻りつつあります。

また二葉学園では、東京都多摩児童相談所フォスタリング機関事業の事業業務委託を受けることになりました。令和2年10月(8月より引継ぎ)より開始となり、地域性に応じた丁寧で具体的な支援ができるよう、地域の児童養護施設等関係機関と連携して、フォスタリング事業が展開できるような取り組みを目指しています。

今後、東京都は5年以内に管轄の児童相談所全てにおいてフォスタリング機関事業を開始する予定としています。特別区児童相談所開設にともなうフォスタリング機関事業受託者選定も、区児相開所ごとに行われる予定のため、1つ1つ丁寧に地域の里親家庭と子どもに還元できるような支援体制の構築を行っていきたいと思います。

二葉乳児院 副院長 長田 淳子

フォスタリング事業：行政からの委託を受け、里親子の相談援助や研修、里親制度の広報、啓発等を行っています。

二葉学園 70周年記念誌の紹介



この度、「70周年記念誌 平成30年間のあゆみ」を刊行いたしました。

刊行にあたっては、関係各所多くの方々にご協力いただき心より感謝しております。この記念誌は二葉学園70周年記念事業の1つとして「さらなる30年のために」と題し、平成29年二葉学園の中長期計画において「学園養護のまとめ」として着手されました。

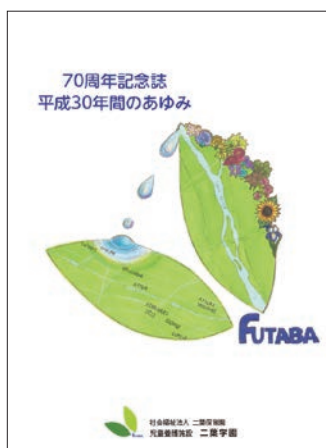
冊子作成に携わった職員達は、当時の写真を眺めながら子ども達の様子や生活ぶりを振り返り始めると話題は尽きなく、打ち合わせはどんどん脱線してしまっていたようです。その尽きない語り合いは、子ども達への大切な思い、子ども達と関わる大人へ伝えたい願いとなって、この冊子1ページ1ページに記されていることを読み手に感じさせてくれる内容となっています。

冊子の表紙をめくるとまず武藤常務理事の達筆による「子どもと共に生き、子

どもと共に育つ」という法人の理念の一節が力強く記されています。そして、二葉学園がなぜグループホーム実践を展開してきたのか、これまでの小規模化・地域分散化を進めてきた流れや各グループホームの歴史が綴られています。終盤には元園長と現園長の3人の対談や分園で生活をしていた子ども達と当時の担当職員との座談会のページがあり実に読み応えがあります。

ぜひ皆さまにも、この記念誌を手にとっていただく機会があればと思っています。

二葉学園 主任 星 直倫



2019年度二葉支援の会に寄せられた寄付についてのご報告

二葉支援の会では、平成29年度から「二葉を巣立った人たちへの自立支援」に力を入れていくという目標を掲げてまいりました。この目標を多くの皆様にご理解いただいた結果、2019年度は総額3,871,595円もの寄付が集まりました。また、この中には創立120周年記念に対して頂いた寄付もございました。本当にありがとうございました。

2019年度は、二葉を巣立った人たちへの自立支援として、自立支援・アフターケア基金による支援の件数が近年最も多い年度となり、総額2,221,989円もの支援額になりました。多くが、生活資金等の給付でしたが、大学の学費の一部を支援したケースもありました。コロナ禍が続く中で、冒頭で常務理事が記しましたように、自立支援・アフターケア基金による支援の増加が今後も予測されます。どなた様も大変な状況な中で、重ねてのお願いを申し上げるのは誠に心苦しい限りですが、引き続きご支援をお願いできれば幸いです。

さて、新型コロナウイルス感染拡大の第一波の少し前から、二葉支援の会会員の奥山明彦様から、写真のような除菌シートや消毒液、ハンドソープを本当に複数回に渡り、たくさん本部にお届けくださいました。こちらの寄付物品は法人本部に近い二葉乳児院や二葉南元保育園を中心に、感染防止対策のために活用させていただきました。これらの物資が手に入りにくい状況が続く中で、本当にありがたく感謝して日々使っています。

併せて、(一社)日中一帯一路促進協合理事長の高邑勉様から、中国製のマスクを大量に都内児童養護施設へご寄付をいただきました。その一部を二葉にもいただくことができ、緊急事態宣言下でも平時と変わらず勤務しなければならなかった乳児院や児童養護施設等の事業所の職員を中心にマスクを配布することができました。

本来であれば、すべてのご支援を具体的に挙げて感謝申し上げたいところですが、誌面の都合上、コロナ禍に寄せられたご支援に特化して今回はご報告いたしました。最後になりましたが、下記の皆様から2019年度(2019年4月～2020年3月)にはご支援をいただきました。お名前を掲載し、感謝をもってご報告いたします。

法人本部 百瀬圭吾



ご寄付をお寄せ下さった皆様 (敬称略)

愛知 芙美子	遠藤 敦子	高橋 和代	菅原 友香	中島 まゆみ	藤澤 綾子	元橋 三千代
秋山 健次	遠藤 久江	小西 純	鈴木 博人	中村 晶子	藤澤 晴子	本村 浩輔
阿部 久美子	太田 清子	駒崎 幸	鈴木 美邦	中山 正雄	藤田 潮	谷中 信一
網野 武博	大野 恵子	小山 和子	鈴木 浩之	西村 道子	藤林 はる子	八幡 則子
荒井 和也	大橋 雅子	五月女 友美子	瀬尾 義広	西本 知代	藤原 誠	山崎 美貴子
新井 美津子	岡崎 瑠美子	坂倉 綾子	関 幸子	新田 建太郎	布施 関	山田 あきこ
井口 治彦・早苗	奥野 弘史	坂本 和子	関沼 幸通	野澤 理子	ホトツカ シゲオ	山田 琢史
池田 竜平	奥山 明彦	坂本 健	園 武友	野津手 真理子	本郷 泉	山田 美和子
伊豆 道子	押切 重洋	坂本 正路	高木 みさ子	橋口 英二郎	牧 甫	山戸 祐子
磯部 日出夫	小野 雄一郎	佐藤 政雄	高橋 和代	橋本 康彦	町田 とし江	横堀 昌子
伊藤 陽子	梶ヶ谷 洋子	穴戸 健夫	竹内よし子	羽田野 恵美子	真鍋 美一	吉澤 貞雄
乾川 日出夫	片倉 昭子	市東 和子	多湖 美和	羽根田 弥生	三上 真子	吉田 恒雄
井上 収之	片山 雅子	篠原 誠	田部井 吉夫	馬見塚 統子	三木 英一	米澤 瑛子
井上 従子	加藤 公子	島 京子	田村 幸子	林 聡	宮沢 成実	
岩佐 明博	金城 清志	清水 純子	丹井 逸子	林 千尋	宮本 泉	
岩本 和雄・隆子	川久保 美和子	小倉 嗣子	千葉 たき子	林 伸子	冥賀 令	
植木 すみえ	河津 英彦	小路 禎実	戸島 陽平	林 浩康	武藤 素明	
馬上 英実	北澤 順一	須川 暢子	中島 太味子	東山 靖子	宗像 雅子	

朝陽学園 園長 千葉 孝正
 学校法人 女子学院 理事長 寺嶋 潔
 株式会社 大塚商会
 株式会社NUK建築計画事務所
 株式会社クロッシング・フォーラム 代表取締役 盛 和子
 至誠学園名誉学園長 高橋 利一
 社会福祉法人 新宿区社会福祉協議会 会長 大須賀 頼彦
 社会福祉法人恩賜財団慶福育会麻布乳児院 院長 浦川 新
 社会福祉法人カリタスの園 つぼみの寮
 社会福祉法人クリスト・ロア会 聖ヨゼフホーム 理事長 宮田 浩明
 社会福祉法人興望館 理事長 柏女 霊峰
 社会福祉法人至誠学舎立川 児童事業本部 高橋 誠一郎
 社会福祉法人青少年福祉センター 自立援助ホーム 長谷場新宿寮 松本 耕造
 社会福祉法人東京恵明学園 理事長 杉村 伸二郎
 社会福祉法人マハヤナ学園 理事長 菊地 悦子

社会福祉法人六踏園調布学園 石井 義久
 十文字学園女子大学 潮谷 恵美
 清心乳児院 平田 ルリ子
 聖友乳児院
 東京都社会福祉協議会 保育部会長 城所 真人
 東京都社会福祉協議会 松田 京子
 錦華学院 土田 秀行
 ニチバン株式会社
 日本キリスト教団 東中野教会
 東中野教会「二葉保育園支援献金」教会有志(担当:井上)
 松井建設株式会社
 有限会社ニドインダストリアルデザイン事務所
 りんどう法律事務所 掛川 亜季
 社会福祉法人六踏園調布学園
 有限会社 ニドインダストリアルデザイン事務所

「二葉支援の会」への寄付について

二葉保育園では、「二葉支援の会」が中心となって、法人内の各施設の事業や組織運営を支えていく活動を行っています。ご寄付は、年一口5,000円以上をお願いしておりますが、金額は問わず、一人でも多くの方にご支援を頂きたいと思っております。ご入会・ご支援頂ける方はぜひ当法人本部までご連絡ください。

★当法人へのご寄付は社会福祉事業への寄付として確定申告をして頂くと税制上の優遇措置(寄付金控除)が受けられます。詳しくは当法人本部までお問い合わせ下さい。

「二葉支援の会」お問い合わせ

社会福祉法人二葉保育園 法人本部

電話 **03-3341-1205** (平日10時～17時)

E-mail **info@futaba-yuka.or.jp**

郵便振替

口座番号：00120-2-30321

口座名義：社会福祉法人二葉保育園

銀行振込

三菱東京UFJ銀行 支店名：四谷支店

口座番号：普通0506208

口座名義：(福祉)二葉保育園 理事長 遠藤久江

クレジットカード

社会福祉法人二葉保育園ホームページの「寄付のお願い」ページからお手続き頂けます。



社会福祉法人 二葉保育園 概要

法人本部

所在地：〒160-0012 東京都新宿区南元町4番地

設立：1900年(明治33年)

理事長：井上 従子

常務理事：武藤 素明

理事：河津 英彦、押切 重洋、福田 敏朗、都留 和光、町田 とし江

評議員：宮沢 成実、鈴木 美邦、磯谷 文明、市東 和子、吉村 晴美、金子 恵美、潮谷 恵美、貫名 通生、浦上 充

監事：園 武友、乾川 日出夫

職員：4名

二葉乳児院・地域子育て支援センター二葉

院長 都留 和光

児童定員：40名 職員：102名

住所：〒160-0012 東京都新宿区南元町4番地

二葉学園

統括園長：武藤 素明 園長：小倉 要

児童定員：52名(グループホーム8ヶ所を含む)

職員：73名

住所 本園：〒182-0035

東京都調布市上石原2-17-7

二葉南元保育園

園長：町田 とし江

児童定員：110名 専門型一時保育：10名 職員：52名

住所 本園：〒160-0012 東京都新宿区南元町4番地

二葉くすのき保育園

園長：森本 裕美

児童定員：100名 職員：39名

住所：〒182-0022

東京都調布市国領町3-8-15 都営くすのきアパート1号棟

二葉むさしが丘学園

統括園長：武藤 素明 園長：菅原 淳史

児童定員 本園：60名(一時保護6名を含む)

グループホーム：18名、職員：65名

ファミリーホーム：6名、職員：2名

住所 本園：〒187-0011 東京都小平市鈴木町1-62-1

自立援助ホーム トリノス

統括園長：武藤 素明 ホーム長：渡辺 剛史

児童定員(男子)：6名 職員：4名

住所：〒191-0021 東京都日野市石田1-28-10

二葉とこども29号 2020年 9月10日発行 編集・発行 社会福祉法人 二葉保育園「二葉支援の会」

〒160-0012 東京都新宿区南元町4番地 TEL：03-3341-1205 法人本部事務局 <http://www.futaba-yuka.or.jp>